

<今日の説教のポイント サムエル記下11～12章>

①平気で人の妻を奪い、その夫を殺すダビデ。信仰深いダビデがなぜ？

サムエル記下 11 章には、それまでの信仰深いダビデからすると信じられないような罪を犯し続ける姿が記されています。また、神（主）が一切登場せず、ひたすらダビデ（人間）が考え実行していく感じがするのも特徴です。しかし、一番最後に、「**ダビデのしたことは主の御心に適わなかった**」(27)と記されているのです。これは私たちにドキリとさせます。神様がダビデの全てを見ておられたことを知るからです！ ダビデは真の神様を知っているはずですが、だのになぜ、このように神様を恐れることなく、罪を犯し続けたのでしょうか？ 王位が固まり、力も強大になる中で、気が緩むというか、神様を忘れ、自分の思い通りになると思うようになっていたのでしょうか。ましてや、神の存在を信じていない人が、誰も見ていなかったら、同じような過ちを犯しても不思議でないことは、世の中で起こる色んな事件を見ても分かります。

②罪人ダビデはどうなったのか？ 神様が用意して下さった救いの道！

「**ダビデのしたことは主の御心に適わなかった**」(1:27)に続き、12章は「**主はナタンをダビデのもとに遣わされた**」(12:1)で始まります。神様は見ておられ、故に、ナタンを遣わされたのです。ナタンはダビデに自分がしたことの罪をはっきり気づかせました。「**その男はあなただ。イスラエルの神、主はこう言われる。…なぜ主の言葉を侮り、わたしの意に背くことをしたのか。…**」(9-12)。聖書で「罪」と訳されている原語の意味は、「**的を外して矢を射ている＝神を見ないで生きている**」という意味です。ですからダビデは、「**わたしは主に罪を犯した**」(13)、と言ったのです。ダビデは真の神を知っていました。知っていながら、神を忘れて様々な罪を犯しました。しかし、主から遣わされたナタンを通し、もう一度、真の神の方に向き直す道を与えられたのです。主はこの告白を受け入れて下さいました、「**ナタンはダビデに言った。『その主があなたの罪を取り除かれる』**」(13)。神様は、今の私たちにも、ご自身を示し、ご自身に向き直させるために、イエス・キリストを遣わして下さいました。来週の礼拝で、その救いの道について考えます。